

NEWS



特定非営利活動法人 しみん基金・こうべ

〒651-0095 神戸市中央区旭通1-1-1-203 (サンピア2F)

TEL078-230-9774 FAX078-230-9786

E-Mail kikin@stylebuilt.co.jp URL <http://www.stylebuilt.co.jp/kikin/>

少額寄付でも、アイデア次第で大きな金額になる

阪神・淡路大震災で被災市民をはじめボランティアが活躍したことは、この間いろいろな場面で語られてきました。災害救援の文化が定着したといえます。当「しみん基金・こうべ」はそのような背景のもとで、市民が市民活動を財政面で支えようという目的で設立された基金です。災害救援をきっかけに、百円あるいは五百円という「一コイン」による寄付の文化を定着させようというねらいでもあったのです。しかし阪神・淡路大震災十年を前にして、当基金の寄付額は毎年下降線をたどっている現状です。

さて日本では、海外と違って寄付文化があまりにも育っていないとよく言われますが果たしてそうでしょうか？寄付額は海外に比べて比較にもならないようですが、日本でも災害などの緊急時における寄付はそれなりの金額になっていることが分かります。例えば、一九九九年トルコマルマラ海地震の時には、日本赤十字も含めて民間の寄付の総額は二五億円を超えたと聞いています。二〇〇一年の「九・一一」のあとにもほぼ同額の寄付が集まったと記憶しています。

実は国内の災害に対しても多くの人たちが反応しておられます。阪神・淡路大震災から十年を前にして発生した新潟中越地震では、こんな工夫がされていきました。被災者への直接の寄付となる義捐金ではありませんが、ある民放テレビ局がとった手法は、視聴者が電話でそのテレビ局に義捐金の寄付の申し出をすると自動的に百円がそのテレビ局に振り込まれるというしくみなのです。その一回の電話で何と一億円を超える義捐金が集まったのですから、どうも日本における寄付の文化が育っていないという評価は的を得ていないようです。集める側にもっと工夫がいるのではないかと考えさせられた次第です。寄付をしようとする人たちにとっても選択肢が多いということが大事なことです。

そういえば、阪神・淡路大震災からの学びの一つに「多様なことの大切さ」とあったように思います。当基金もあらためて工夫を試みたいと思いますのでみなさまご協力のほどお願い申し上げます。

被災地NGO協働センター代表 村井雅清



目次

▼少額寄付でも、アイデア次第で大きな金額になる

▼特集 アドバイザー派遣事業

- ・交流会開催
- ・コーディネーターの立場から派遣を受けた団体の感想
- ・アドバイザーを経験して

▼ぼたんの会からのお知らせ

▼リサイクル寄付事業にご協力を

▼助成金情報掲示板

▼十年目のひとりごと

▼ご寄付いただいた方々

▼あとがき

NPOの現場にふれて思うこと

特定非営利活動法人

神戸まちづくり研究所

事務局 東末真紀

(NPO支援アドバイザー派遣事業コーディネーター)

この事業でご縁があった団体は、どこも資源の確保にご苦労されていましたが、地域の細やかなニーズに一生懸命答えている現場の様子は尊く、派遣から帰ってくるアドバイザーのほうに学びが多かったように感じ、出会いに感謝しています。

さて、現場で見たNPOは、事務局機能のスキルアップへのニーズは表面化していますが、潜在的には、特に人材育成やボランティアマネジメントなど人材をいかに活用するか、行政、企業との協働をどう進めるか、事業を評価するために、いかに目標を定めていくかなどの、いわゆるマネジメント分野にニーズがあると感じました。しかし、日常の業務が忙しいため、マネジメントの基礎である「経験からの省察/事実の検証」が充分に行えず、後回しになっているのが現状でした。そのような事情を理解した上で、そのプロセスへの団体の意欲を決して逃さないこと、派遣で得られた成果を自立の意識にちゃんと結びつけることが、私の大きな役割だったように思います。

余談になりますが評価の時期なので——コーディネーターとしての課題は「自立をどう量るか」ということでした。経済的な自立は計ることが可能ですが、行動・精神面に関する自立に

関しては、現在どの業界もそれぞれの立場の主観に頼られていて、立場違えばその評価は様々。「進みだしたね」と喜んでいる私たちの評価をよそに、委託元や全くの第三者からはまだまだ！と言われている様な気がして、仕方がないけれど残念な気持ちです。

以前勤めていたNPO界でも、(受益者の)自立の評価が課題でした。そもそも論で混沌とし、もう無理！とあきらめていた時に、IIHOE代表川北秀人氏が言った言葉が、私のマネジメント論に大きく影響しています。

「自分の行ったアプローチの何が、その人を変えたのか？なぜ自立へのプロセスを歩み始めたか、僕はそれに興味があるけど、興味ない？」

行政や企業ではできない、評価しづらいニッチの部分を担当NPOに、私が勝手に願っている、最も大切にしてほしいエッセンスは、受益者や社会(地域)の意識の緩やかで着実な変化に敏感であること。団体のどのアプローチでその変化が生まれたのか、日常の現場の出来事を一つ一つ検証し、自覚(認める、成果とする)していくことが、団体の評価や団体運営の支え(マネジメント)につながっていくのだと、その言葉は言っています。

「よく看(視)て、よく動き、よく感じ、よく共有せよ。きっと答えは現場に落ちている！」



指導内容(依頼にこたえるために指導した内容も含む)

PC技術 :

Word基礎6件 応用1件 Excel基礎4件
Access操作4件 Outlook Express操作1件
機関紙編集ソフト1件 PC環境整備(LAN ウィルス
対策含む)15件 デジカメ指導1件

情報発信 :

ホームページ基礎知識(活用方法と管理責任)
・作成・更新21件
リーフレット作成1件 広報一般6件 機関紙作成指導3件
その他1件

組織マネジメント :

事業計画書作成3件 組織運営相談6件 イベント企画・運営2件
法人格取得相談1件

その他実務 :

会計9件 データ管理方法(データ集計、データベース構築含む)5件

(神戸まちづくり研究所まとめ)

～アドバイザーを経験して～

海老名 巖

私は、メーカーで財務、経理の仕事をしていました。リタイア後にNPO法人に興味を持ち、アドバイザーに応募しました。採用が決まり、平成16年5月から、計6団体を担当しました。

あらかじめヒアリングで要望を聞いた団体に出向き、半年間指導を続けました。中には、公的機関で詳細を確かめたほうがよい性質の相談を持ちかけられたこともあり、しかるべき相談先をお教えして短期のアドバイスを終了したケースもありました。

団体を訪問する際は、まず、スタッフの皆さんと仲良くなろうという気持ちでお会いします。経済的な基盤がしっかりしている団体、そうでないところ、事務所の印象もまちまちでした。しかし総体的にNPOスタッフは、掛け持ちで他の仕事をしている人が多く、皆多忙の様子。特に、若いボランティアが無償で働いている姿などを見ると頭が下がりました。

アドバイザー派遣は半年間がひとつのサイクルになっていて、原則的に指導期間を延長することはありません。私は主に財務や経理について教えました。指導後、伝えた内容を思い出してもらえるか多少不安もあり、特製マニュアルを作成して置いてきました。

今後も各団体が充実した活動を展開されることを祈っています。



海老名巖さん(右)と金村正一さん(左)

adviser

◀ アドバイザーと団体のお見合い会 ▶ ▶▶▶ ▶ 研修 ▶▶▶▶ ▶ アドバイザー雇用 ▶▶▶▶▶

～アドバイザー派遣を受けて～

神戸垂水おやこ劇場 浦 千里

私達は過去2回、半年ずつアドバイザー派遣を受けました。いずれもパソコンの指導をお願いしました。それまで、仲間内にワードやエクセルを扱えるスタッフはいましたが、ホームページに詳しい者がいませんでしたので、アドバイザーさんにはホームページの作成更新について教えていただきました。

単に技術面で指導を受けただけでなく、課題を投げかけていただくこともありました。「保育や行政に携わっている方々

にも興味を持って見ていただけるホームページにするにはどうしたらよいか」ということについて、膝を突き合わせて話し合ったりしました。派遣された方たちがNPOの内容や運営をよく理解されていたので、コミュニケーションはととてもとりやすかったように思います。

完成したホームページを後日、他の広報活動セミナーで見てもらう機会がありましたが、画面が見易く内容が大変わかり易いとの評価を得ました。

指導期間を通じて、アドバイザーの方々には義務感に縛られて教えているという堅苦しさがなく、私達が何回となく初歩的な質問をくり返しても気軽に対応してくださり、楽しくも充実したひと時を持つことができました。時には調子の悪いパソコンのメンテナンスまでしていただいたこともあり、感謝しております。



マッチング

派遣開始

～派遣事業の指導から生まれたもの～

こどもコミュニティアクア

末永美紀子



会報の作成作業を通じてパソコンの効率的な操作から、イベントの企画運営方法に至るまで、アドバイザーの方には、多岐にわたる相談にのっていただきました。たとえば会報については、同じ内容を伝える場合でも、読み手となる対象者によって表現を変える必要があるのではないかという問題提起があり、十分な理解を得るための表現方法を工夫しました。また、内容は一度に盛り込まずシリーズ化してもよいというアドバイスをいただき、複数の選択肢が提示される中で、考えを煮詰めていくことができました。

アドバイザーさんは、常に、私達の話によく耳を傾けて、漠然と抱えていたアイデアの問題点を指摘し、実現への計画と一緒に練ってくださいました。

指導を受けていた頃は企画段階だった「ちっちゃな保育所」がこの4月に実現しました。一戸建の1階を保育所、2階を事務所として使い、しょうがいや慢性疾患を持ったお子さんもお預かりしています。

「ちっちゃな保育所」の開業祝いに、計画段階でご協力をおおき大変お世話になったアドバイザーさんが干し椎茸の袋を持ってかけつけてくださいました。以前と変わらない細やかな気遣いに感謝すると共に、温かい励ましを今後の活動にも繋げていきたいと思っています。

adviser

アドバイス ■■■■ ◀ アドバイス計画案作成

adviser



～僕のアドバイザー体験～

金村 正一

求人雑誌を見て、非営利って何？と思ったのが、この仕事を始めるきっかけです。派遣された先の事務所で、HPを立ち上げたり、ソフトの使い方を指導するのが僕の仕事でした。

まず、教科書となる冊子を購入していただきました。パソコンの操作を細かくメモしてもらうことより、ワードではどういうことができるのか、エクセルではどんなことができるのかを理解してもらうことを優先しました。

HP作成においては、一から作る場合と更新だけを指導する場合があります。新しく作る場合は、まず、絵コンテを書いて、構成や写真や色も含めた完成画面をイメージしてもらいました。指導者と教えられる側の間で、イメージに差があれば、コミュニケーションをとりながらその差を埋めていきました。こちらのアイデアを押し付けるのではなく、サポートする姿勢で接することをこころがけました。

自分より年上の方がほとんどで、どのように話したらうまく伝わるのか、多少とまどったこともありました。

訪問を重ね技術を残す過程で、指導分野での自立の導き方が課題となりました。

派遣期間を振り返ってみると楽しく、一般の企業では味わえない体験ができて良かったと思っています。

課題検証



団体ヒアリング



ぼたんの会よりお知らせ

トークと音楽の夕べ

すべての地に、新しい陽は昇る！
震災10周年 竹下景子さんをお招きして



女優竹下景子さん

日時： 2005年1月18日（火） 開場 17:45 開演 18:30

会場： 神戸新聞 松方ホール

第1部 コンサート

（ヴァイオリン 金関 環 & ピアノ 高島 春樹）

第2部 トークショー

（女優 竹下 景子 & しみん基金こうべ理事長 黒田 裕子）

チケット： 前売り¥2,000 当日¥2,500 学生¥1,000

松方ホール友の会会員¥1,800

お問い合わせ先： しみん基金こうべ事務局

TEL 078-230-9774 FAX 078-230-9786

しみん基金こうべで
展開中の
リサイクル寄付事業

広く市民の皆様
へのご紹介を
お願いいたします



しみん基金こうべでは、会員の皆様からいただいた会費、寄付金等をその基礎として、様々な市民活動をされておられる団体のための助成事業を展開してきました。

そして助成事業規模の拡大を念頭においた財源確保の試みとして、リサイクル寄付事業を展開してまいりましたが、まだまだ確たる実績を残せていないのが現状です。

「手元にあっても必要なくなったもの」を「必要としている人たちのもの」にお届けする、

この考えに基づいて立ち上げた事業でございますが、「必要としている人たち」へのチャンネルは協力業者さんたちのご尽力のおかげで確保できたように思われますが、「手元にあっても必要なくなったもの」をお持ちの方々へのチャンネルが不足しているように感じられます。

事実、協力業者さんをお願いしてチラシの告知をしていただ直後には、結構な数の寄付のお申し出を頂戴しました。

しかし1・2回の告知を行ったのみではその効果は長続きしませんでした。「手元にあっても必要なくなったもの」を求めている私たちの声が、市民の皆さんに十分には届いていないのではないかと思います。私たちは、多額の広告宣伝費を投入して認知度の向上を図る、という風な方法論が許される組織ではありません。しかしながら、私たちには今までの活動の中で培ってきた会員、関係者の皆様との絆があります。企業の論理にあるような即効性を求めてはいけないと自戒しつつ、会員、関係者の皆様へ、私たちのリサイクル寄付事業のご紹介活動を粘り強く展開することをお願いしたいと考えます。

皆様はそれぞれにご多忙に身にあられることは十分に承知しておりますが、志のあるところをお含みいただきまして、私たちのリサイクル寄付事業のご紹介活動をご展開いただけますよう、宜しくお願い致します。



古着リサイクルお問い合わせ先：

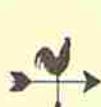
電話078-709-7791

（古着deチャリティ垂水寄付センター）

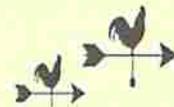
家電製品・家具などリサイクルお問い合わせ・受付窓口：

電話078-230-9774

（しみん基金こうべ事務局）



助成情報掲示板



兵庫県社会福祉協議会から情報をいただきました。



NPOパワーアップ事業助成実施のご案内

ひょうごボランティアプラザでは、NPOについての社会的な認知度と社会的信用を高めることを目的として、NPOの積極的な情報公開と、広報・普及啓発活動の強化、そして、組織としてのマネジメント能力の強化を促進するための助成事業として、昨年度に引き続き、「NPOパワーアップ事業助成」を実施します。

募集期間：平成16年9月1日（水）～平成16年12月24日（金）

対象団体：次の条件をすべて満たす団体

<1> 団体の主たる事務所が兵庫県内にあること。

<2> NPO法人又はNPO法人に準ずる団体であること。

助成金額：1項目5万円（項目の内容については下記参照。各項目1回限り申請することができます。今年度が初回申請の場合、5項目のうち3項目以上の基準を満たした段階で申請してください。）

助成項目：<1> ITの活用による情報公開

(1) ホームページを開設し、次の項目すべてを掲載していること。

①団体の定款又は会則

②事業計画・事業報告

③予算・決算

④役員名簿

⑤団体の活動情報

(2) ひょうごボランティアプラザが運営する「地域づくり活動情報システム～コラボネット～」に、地域づくり活動登録を行っていること。

<2> 定期的な機関紙、情報紙の発行

(1) 団体の機関紙、情報紙を年間4回以上（1回につき概ね4ページ以上）発行していること。

(2) 情報紙・機関紙等を1回につき500部以上発行し、会員以外にも活動内容を広く発信していること。

<3> セミナー、講演会等を通じた団体ミッションの普及啓発事業の実施

(1) 申請団体主催のセミナー、講演会等を年間4回以上開催し、団体のミッションの普及・啓発を図っていること。

(2) 参加者は、団体の構成員対象ではなく、広く県民を対象とし、団体構成員を除く参加者数が80名以上（年間参加者合計）であること。

<4> 役職員のスキルアップのための研修会等への参加

(1) 団体のマネジメントに必要なスキルの向上や資格取得のために、役職員を他団体等が実施するセミナー、講演会、見学会へ参加させていること。

(2) 上記(1)の参加費用又は資格取得のための受験料として5万円以上の経費を団体として負担していること。

<5> 団体のマネジメント能力向上のための体制整備

(1) 弁護士、公認会計士、税理士、社会保険労務士等から団体のマネジメントに関する指導を受けていること。

(2) 上記(1)の指導料、委託料等として、5万円以上の経費を団体として負担すること。

問い合わせ・申請先：ひょうごボランティアプラザ（兵庫県社会福祉協議会）担当：石野・永安
〒650-0044 神戸市中央区東川崎町1-1-3 神戸クリスタルタワー10F
TEL 078-360-8845 FAX 078-360-8848

information *04'11* for you

.....このページは、いろいろな団体の助成金に関する情報を掲載するコーナーです。助成金広告の掲載をご希望の方は、しみる基金こうべの事務局までご一報ください。



10年目のひとりごと

～ 防災の「手あて」～



度重なる台風での被害、そして新潟中越地震による被害、被災された方々には心よりお見舞いを申し上げたい。

日本語では「手」という言葉が本当に多く使われる。少し思い出してみても、「手あて」「てづくし」「手厚い」「手をつくす」「手引き」「手だすけ」「手ごたえ」「手伝い」「手直し」等等……。中でも、「手あて」という言葉に防災のキーポイントがあるように思う。「手あて」だけでは、医学的処置なのか、給料なのか、補修なのか、準備なのか、文脈なしでは意味不明かもしれない。しかし、そのいずれのケースでも真底において「手をあてる」ことこそ最も本質的に必要なのだということを昔の人々は知っていたのだと思う。実際に手をあててみることでしか、わからないものが存在するというのではないだろうか。

今回の災害においても、台風による河川堤防決壊による氾濫や、地震による土石流、土砂崩れ等を見て、事前に「手」をうてなかったものか、危険性のあった地域への「手あて」は充分だったのか、災害が起こった場合の地域住民への「手あて」は・・・と思う方は大勢いらっしゃるのではないかと思う。阪神・淡路大震災を経験した方なら尚更のことではないか。再度、尊い命の犠牲を前にして、このことを問いかけていかなければならないと思う。災害の予知や防止のための技術が進歩しても、まだまだ自然界には私たちの計り知れない力が存在する。であるならば、起こりうる災害への最大限の「手あて」と不幸にして災害が起きた場合、被害を最小限に止める「手あて」に「手」を尽くしておくべきであると思う。震災から10年、私たちは「胸に手をあてて」防災への「手あて」を考える時だと強く感じる。

瀬戸口仁三郎



皆様、ありがとうございました。

会員数と「寄付」の報告

(2004年4月～
2004年10月)

- ◆ 正会員
個人三四名 団体五名
- ◆ 賛助会員
個人一〇二名 団体二〇名
- ◆ 寄付・募金合計金額
一、五三四、一五三円
- ◆ 寄付者・募金一覧
(敬称略・順不同)
柳田邦男・WSひょうご・
山口一史・たきだし委員会・
被災地NGO協働センター・
KCCライフプランセミナー・
ぼたんの会実行委員会

◆ あ と が き ◆

台風一過の屋下がり、白鷺が一羽、川の下流に降り立ちました。餌をいばむ様子もなく、浅瀬に足をつけたままじっとしています。車椅子の輪っかに手をかけた少年が橋の上からそれを眺めていました。そのうち、小魚を探るかもしれない、藻をつつくのかな。鷺が微動だにしないので、両者は根比べのようになり、鳥が動くのを待ちきれなくなった少年は、少し名残惜しそうに通り過ぎていきました。みずから動くことで次のページをめくった少年と、やり過ごして待った鳥。硬直した事態の打開方法ふたつ。

台風で変わってしまった中州の形に、鷺は呆然としていたのかもしれない。被災地にも、その他の地方にも、人家の塀を越えて幸せの香が流れてくるような、あたたかい新年がやってきますように。(S)

「しみん基金・KOBÉ」の運営を支えて下さる賛助会員と寄付を募集しています。

個人会員 年間 3,000円
賛助会員 年間 10,000円



お申し込みは電話・FAX・電子メールなどで、お名前・住所・電話番号をお知らせ下さい。

振込口座 三井住友銀行 三宮支店 普通7965892
みなと銀行 本店営業部 普通1597921
近畿ろうきん 神戸支店 普通4161854
郵便振替 00990-5-157334
口座名義「しみん基金・こうべ」